

おおむた漫画ストーリー

萩尾望都さん、古賀新一さん、鴨川つばめさん…。
大牟田は昔より多くの漫画家を輩出してきました。また、11月に公開される映画「いのちスケッチ」も、大牟田の漫画と深い関わりを持っています。

今回の特集は、そんな大牟田に関連する漫画の世界を届けます。

じつは、
かなりスゴイ！

対談

漫画家

萩森千聖さん × 原田誠一さん

漫画コレクター

本市の漫画文化が

絶えないように

貸本屋の存在が漫画家を生んだ

原田…ぼくたちが小さな頃は貸本屋が全盛の時代で、そこで好きな漫画を借りて読むことが何よりの楽しみでした。最初のころは一冊5円だったのを覚えています。

萩森…そうそう、友達と違うものを借りて、回して読んでいました。少ないお小遣いではそんなに本は買えないのでありがたかったですね。

原田…当時（昭和30年〜40年代）は、大牟田市内だけでも40件以上の店があり、ほとんどの子どもは通っていたんじゃないかなあ。萩尾望都さんや原田千代子さんなど、漫画家が続々デビューしていきましたが、本市出身の漫画家が多いのは、貸本屋が多いことも影響していると思います。萩森さんはいつ頃から漫画家になるうと？



原田 誠一さん

漫画本だけでなく、原画や資料、非売品のグッズなど、貴重なコレクションを数多く所有。全国から資料提供を求められる大牟田在住のコレクターです。

萩森…私の場合、小学生の頃には夢は漫画家と周りに話していました。とにかく絵を描くのが好きでしたから。そんな時、高校2年生で投稿した作品が、集英社の長編漫画賞の佳作を受賞しました。その年の12月に授賞式に招待され、憧れの漫画家さんがたくさんいらっちゃって、興奮したことを今でも覚えています。その勢いそのまま新しい作品を描き、高校3年生の時に「秋のころのひとかけら」でデビューしました。

原田…その時のことは覚えていますが。有明新報に、通町の女子高校生、漫画家デビューって大きく掲載されましたからね！

萩森…お恥ずかしい…。でも、親が進学を望んでいたため、東京の大学へ進学しました。両立は大変でしたが、好きな道を進んでいたの、楽しかったですね。漫画業界も上り調



萩森 千聖さん

昭和54年のデビュー以来、一貫して読み切り作品を描く、息の長いヒット作家。現在療養中のため活動を中止していますが、多くのファンから復帰を熱望されています。



© 萩森 千聖 / 集英社

原田…漫画の業界も厳しくなっているようですが。
萩森…現在、小学生の子どもたちに接する環境にいますが、文章を読み取ることが苦手な子が多く、結果的にそれは人の気持ちを察することができないことに繋がっているようです。日本の漫画やアニメは海外から注目されているように、絵もストーリーも質が高いと言われています。小説もそうです

漫画文化が続くように

子だったので、そこにも恵まれました。残念ながら、くも膜下出血で倒れてしまい、後遺症の影響で10年近く作品が描けない状態が続いています。出版社の方から復帰を期待されていますので、体調が良くなれば、早く描きたいですね。

が、いろいろな作品に接して、感じ取る力を身に付けて欲しいと思います。もし、漫画家を目指している人がいたら、この日本が誇る文化をなくさないように、頑張ってくださいね。
原田…大牟田はたくさん漫画家を輩出していますが、萩森さんはその事実を知ってさらに漫画家への思いを強くしたんですね。
萩森…そうなんです。「それならわたしにもできるはず！」って思いました。でも古賀新一先生のご実家が同じ町内だったのはびっくりでした（笑）
原田…大牟田出身で、今でも現役で活躍している人がいます。脈々と続く大牟田の漫画文化が途切れないように、もっと盛り上がって欲しいですね。

大牟田から生まれた多くの漫画家



©1977 鴨川 つばめ / 秋田書店

鴨川 つばめさん

少年チャンピオンに連載された「マカロニほうれん荘」が、新感覚のギャグ漫画として一世を風靡しました。長年表舞台から姿を消されていましたが、近年、原画展が開催され、新たなイラストなどを提供しています。



© 萩尾 望都 / 小学館

萩尾 望都さん

少女漫画にSF的な要素を加え、数々のヒット作を世に放った漫画界の巨匠です。数々の漫画賞に加え、平成24年に紫綬褒章（少女漫画家で初）、29年には朝日賞を受賞するなど輝かしい実績を残されています。今年デビュー50周年を迎えました。

その他にも、平田真貴子さんや福山庸治さんなど、20人以上の漫画家を輩出しています。特筆すべきは昭和52年頃の週刊少年チャンピオン。



©1978 秋田書店 © 水島プロ

「ドカベン」や「ブラックジャック」などを掲載し、絶大な人気を誇っていた同誌に、萩尾さん、鴨川さん、古賀さんが同時に掲載されていました。



©1976 古賀 新一 / 秋田書店

古賀 新一さん

昭和50年から少年チャンピオンに連載された「エコエコアザラク」が大ヒット。ホラー漫画家としての地位を確立しました。同作は何度も映像化されており、時代を超えた不思議な魅力に溢れています。

現役で活躍中の
木俊さん。
てみました。

「子どもたちに 夢を与える存在に」



池田 春香 さん

集英社の「りぼん」にて定期的に作品を掲載。「姉妹日和」「ロックアッププリンス」「たったひとつの君との約束」などのコミックスを発表。漫画以外に、小説の挿絵や企業の広告イラストなど、イラストレーターとしても活動中。



© 池田 春香 / 集英社

カルタックスの蔵書、三池港に沈む夕日、近所で暖かい言葉をかけて下さるみなさん…たくさんの大牟田の人と風景に支えられて夢を叶えることが出来ました。



..... 転機は海外渡航

小さい頃は人見知りで、絵を描いたり本を読むことが好きでした。セーラームーンになりたいと周りのみんなが言っている中、私はこんな話を作ってみたくて思っていて、どちらかといえば自分の殻にこもるタイプでした。

転機は中学1年生のときです。大牟田市が主催する「わくわくシティ基金」の事業で、画家の大津英敏先生（大牟田市出身）と一緒にフランスとイギリスに行き、絵画の勉強をさせていただきました。そのときの

経験がすごく刺激的で「やっぱり私は絵を書く仕事かしたい。そのために自分の殻を脱がなきゃ!」と思いました。

..... 平成21年デビュー

高校生になると、漫画雑誌に投稿し始め、漫画家への夢が固まります。東京の大学に進学し、プロの先生のアシスタントなども経験しながら作品を作り続けました。集英社に投稿した作品でプロ水準の賞を取り、平成21年にプロデビューしました。以後、定期的に掲載を続けながら、イラスト

レーターとしても活動しています。

..... もっと先へ進みたい

まだまだ修行中ですが、本当に漫画や絵を描ける生活が楽しく、夢を諦めず追いかけてきて良かったなと思います。目標は、自分が関わった作品がアニメ化されること。その目標が叶えられるよう全力で仕事と向き合い、子どもたちが「あの人のようにがんばって、自分も夢を叶えたい!」と思ってもらえるようになりたいです。



kiki / マイクロマガジン社



桑野 和明 / 双葉文庫



トネ・コーケン / 角川文庫

注目! 小説の世界でも 大牟田市出身者が活躍

本市出身の作家といえば、西村健さんが有名ですが、まだまだ、ほかに活躍されています。左の3作品はいずれもシリーズ化されており、小説の世界も盛り上がっています!



「いつか大牟田市を 舞台にした作品を」

大牟田市出身で、
池田春香さんと藤
お二人に話を聞い

ありがたい両親の理解

中学生のころ、漫画好きな友人の影響でいろいろな作品を観ていました。そのうちイラストを描くのが楽しくなり、作品を作るようになって、漫画家を目指すようになりました。

大学生だった平成10年、小学館に投稿した作品が「サンデーまんがカレッジ努力賞」を受賞し、夢が一気に現実味を帯びてきました。両親の理解も大きかったですね。ただ、卒業が条件だったので、勉強もやっ

ていましたよ。

ファンの声が励み

上京後はアシスタントをしながら作品を作り続け、平成13年にデビュー。16年には「週刊少年サンデー」で初の連載を開始しました。以来、ありがたいことに、

定期的に連載を描かせてもらっています。満足した作品が描けたときはもちろんですが、ファンレターを頂くことが一番うれしいですね。モチベーションの源になっています。

いつか大牟田を舞台に

しかし、25年に脳出血を患い、利き手に後遺症が残ってしまいました。でもやっぱり描くことが好きで、連載の話もあるので、頑張ります。現在、次の連載に向けて担当者と企画を練っています。

これまでも作品の中に大蛇山を登場させたり、大牟田弁を使ったりしましたが、いつかは丸ごと大牟田を舞台とした作品を描いてみたいですね。

藤木 俊 さん



週刊少年サンデーで「こわしや我聞」「はじめてのあく」「だめてらすさま」と3作品続けて連載。今夏、週刊ビッグコミックスピリッツの連載を終え、新しい連載を企画中。コミックスの巻末におまけのページを載せるなど、遊び心満載の漫画家。



© 藤木 俊 / 小学館



藤木さんの職場。原画もパソコンでやるように。「自分は手書きが好きなんですけど…」



大牟田愛が満載！ 藤木ワールド

大蛇山に大牟田弁、それ以外にも地名や大蛇山Tシャツが登場するなど、大牟田愛が溢れています。

© 藤木 俊 / 小学館

瀬木監督を唸らせた孤高の漫画家



三隅 健さん

子どものころから絵を描くことが大好きで、小学6年生の時に児童画作品展で入賞するほどの実力を持っていました。また、文才にも恵まれ、児童文詩集「せきたん」に入選したこともあり。その才能は漫画でも生かされ、平成10年に「月刊ヤングサンデー賞奨励賞」を受賞。その後も受賞作品に恵まれ、いよいよという時に、病気のために34歳の若さで亡くなりました。彼の作品がこのまま埋もれていくのは、あまりにも惜しいと感じた編集者の皆さんが尽力し、平成22年に「ムルチ～三隅健作品集～」が刊行され、多くの人々の目に留まることになりました。瀬木監督もその一人で、インスピレーションを刺激され、映画「いのちスケッチ」にも三隅さんの世界観が散りばめられています。

瀬木監督に大きな影響を与えました



ムルチ ～三隅健作品集～

代表作「ムルチ」をはじめ全6編を収録した珠玉の作品集。三隅さんのみずみずしい感性が輝いています。

©三隅健/小学館

まさか大牟田で映画を撮ることになるとは！大牟田での映画化の話が湧き上がったとき、にわかに信じられない気持ちでした。漫画家・三隅健の「ムルチ」に出会った8年前、その不思議なリリズムに魅了された僕は、大牟田で映画を撮ることになったら漫画家志望の青年を主人公にしようと心に決めました。三隅作品に対する敬意が映画化への原動力になったと同時に、「いのちスケッチ」には彼への感謝の念を、心を込めて織り込んだつもりです。

漫画といのちスケッチ



瀬木監督

主人公が漫画を描くシーンを担当

映画製作に関われて幸せです！



藏満 健吾さん

平成30年に集英社の「JUMP 新世界漫画賞」で審査員特別賞を受賞し、仕事をしながらデビューに向けて作品を描いています。今年になって突然映画の話が届き、驚きました。映画の中で、主人公が漫画やイラストを描くシーンがいくつかあり、二人で担当することになりました。自分は主に冒頭のシーンあたりを担当したのですが、製作現場でスタッフや俳優の方の仕事ぶりが見れて感激しました。やっぱりプロの方はすごいですね。

大牟田で映画が作られ、しかも仕事で貢献できてとても幸せです。見慣れた光景が広がり、感動できる素晴らしい映画なので、たくさんの人に見て欲しいです。自分も早く漫画家デビューできるように頑張ります！



漫画雑誌の編集者に相談したら、いの一番に彼の名前が出ました。力強さと繊細さが入り混じったユニセックスなタッチは、本作の主人公に合致していました。お会いすると実直な好青年。打ち合わせの9割は僕がしゃべり続けました。僕の中では、会ったことのない三隅健氏とどこか重なるものがありました。彼が大牟田にいてくれて、とてもありがたかったです。



劇中で主人公が描いていた漫画の原稿（初稿）。佐藤寛太さんに、描き方の指導もしました。

炭鉱電車が漫画に登場しました

リアルな描写
にも注目!

全国にある珍しい鉄路を紹介する人気漫画「鉄子の旅」。その3代目シリーズの第4集で、三池炭鉱関連資産と三井化学専用鉄道が紹介されています。平成30年6月にロケが行われ、2話に渡ってじっくりとその魅力を伝えていきます。大牟田大使の道山智之さんも実名で登場!



©霧丘晶・横見浩彦/小学館「サンデー GX」

三池カルタ・歴史資料館 秋の企画展

- ・なつかしのまんがカルタまつり
- ・大牟田ゆかりのまんが家大集合

とき 10月2日(火)～12月9日(日)

昭和30年～40年代のまんがカルタと、大牟田が生んだ漫画家と郷土大牟田の漫画文化を一挙公開します。漫画コレクター・原田誠一さんのレアなコレクションは一見の価値あります。

特別展示として、「三隅健の描く世界」「映画いのちスケッチコーナー」を設け、三隅健さんの貴重な資料や「いのちスケッチ」に関するパネルなども展示します。



©三隅健/小学館

注目!

※観覧料はいずれも無料です

映画「いのちスケッチ」公開記念トークショー

「大牟田が生んだ漫画家と 大牟田から生まれた映画」

映画監督	漫画編集	詩人
「いのちスケッチ」監督	小学館 三隅健担当	大牟田大使

瀬木 直貴さん × 神村 正樹さん × 道山 れいんさん

映画と漫画との関わりや映画の制作秘話、漫画業界の裏話、大牟田の漫画の歴史など、興味深い話が満載の90分!

とき 10月20日(日) 14:00～15:30

ところ 三池カルタ・歴史資料館展示室

漫画コレクター・原田誠一さんのミュージアムガイド

企画展に展示された数々の資料などについて、資料の提供者である原田さんが、エピソードなどを絡めて、マニアックに解説します!

とき 11月24日(日) 13:30～(90分程度)

終わりに



この特集記事のために、3人の方に描きおろしのイラストをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。イラストの中にあるメッセージに、みなさんの大牟田に対する思いを感じ、とても嬉しくなりました。

もうすぐ大牟田を舞台とした映画「いのちスケッチ」が公開されます。見慣れた光景がスクリーンに広がることを想像しただけで、胸が熱くなります。藤木さんの言葉にあったように、いつの日か大牟田が舞台となった漫画ができ、アニメ化されたりすると嬉しいですね。

「クール・ジャパン」として海外からも評価の高い日本の漫画が、これからも本市から作られていきますように。

発行 広報課 (☎412505)